CRÉDIT AGRICOLE S.A.

本書は、英語による Crédit Agricole SA 2015 年度第 3 四半期報告書の抄訳であり、英語による原文がすべての点においてこの日本語の抄訳に優先します。疑義がある場合には英語の原文に従い解釈をお願いいたします。

2015 年 11 月 5 日　モンルージュ

2015 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の業績結果

景気不振の中で歴史的水準に達した四半期業績

－ 力強い事業趨勢

－ 費用の抑制

－ リスク関連費用：一段の低減

－ ソルベンシー・レシオの一層の強化

クレディ・アグリコル・グループ*

2015 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分：17 億 5,100 万ユーロ（前年同期：15 億 3,800 万ユーロ）

2015 年度 9 ヶ月累計期間純利益グループ帰属分：44 億 7,900 万ユーロ（前年同期：35 億 7,500 万ユーロ）

完全適用後 CET1 レシオ：13.4%（+20bps/2015 年 6 月）

*　クレディ・アグリコル S.A.と地域銀行の 100%。

クレディ・アグリコル S.A.

事業部門収益：前年同期比+1.8%*

事業部門の営業総利益：前年同期比+2.5%*

事業部門のリスク関連費用：前年同期比-22.9%*

特殊要因の影響

－ Switch クローバック：純利益グループ帰属分で-8,000 万ユーロ

－ 発行体スプレッド/DVA/CMP：純利益グループ帰属分で-1,700 万ユーロ

2015 年度第 3 四半期純利益グループ帰属分：9 億 3,000 万ユーロ（前年同期比+14.8%）

2015 年度 9 ヶ月累計期間純利益グループ帰属分：26 億 3,400 万ユーロ

2015 年度 9 ヶ月累計期間の ROTE：10.4%

完全適用後 CET1 レシオ：10.3%（+10bps/2015 年 6 月）

*　特殊要因について修正再表示。

クレディ・アグリコル・グループ

クレディ・アグリコル・グループの 2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期比 13.8%増の 17 億 5,100 万ユーロでした。これは、2011 年以降の第 3 四半期では最高の業績です。2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 25.3%増の 44 億 7,900 万ユーロでした。

これらの業績は主に、大半の事業部門での力強い事業趨勢を反映しています。

リテール・バンキング部門では、新規の要求払預金（純額）が引き続き増加し、当年度 9 ヶ月累計期間には、地域銀行で 20 万 4,000 件、LCL で 8 万 7,000 件強の口座開設がありました。フランス国内における当グループの 9,000 店の支店を通じたローン残高は、前年同期比 4.5%増の 5,000 億ユーロ（およそ 3,000 億ユーロの住宅ローンを含む）に達しました。同じ傾向は、住宅ローンが前年同期比 6.2%増となったイタリア子会社のカリパルマでも見られました。

資産管理/保険/プライベート・バンキング部門では、資金流入額（純額）が当四半期も堅調に推移し、年初以降、アムンディの 190 億ユーロと合わせて総額でおよそ 660 億ユーロに達しました。貯蓄/退職保険部門では、2015 年度第 3 四半期の資金流入額（純額）は総額でおよそ 20 億ユーロ、9 ヶ月累計期間では 64 億ユーロでした。プライベート・バンキング部門では、9 ヶ月累計期間の資金流入額（純額）は 30 億ユーロを超えました。

ファイナンス事業部門（ネットワークを除く）も活発に事業活動を展開しました。消費者金融部門では、オリジネーションが前年同期比で 15.5%増加しました。これは主に、クレディ・アグリコル・グループのバンキング・ネットワークと自動車ローン提携事業にけん引されたものです。法人営業及び投資銀行部門は、航空機ファイナンス部門で世界第 1 位を維持し、また、2015 年ユーロマネー・アワード・フォー・エクセレンスで「ベスト・インフラストラクチャ・ハウス」賞を授与されました。同部門は更に、グループ子会社との一連の取引に携わりました。

地域銀行は当四半期に、Switch クローバックのプラス影響を受けて（税引後 1 億 700 万ユーロ）、10 億 4,500 万ユーロの純利益グループ帰属分を計上しました。地域銀行の好調な事業活動は、1.8%の収益の伸びに反映され、高い水準のローン条件再交渉の圧力にさらされた純金利マージンを、5.1%の大幅増となった保険・銀行サービス手数料が補いました。不良債権のリスク関連費用は、残高の 11 ベーシス・ポイントと非常に低い水準で維持されました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の地域銀行の純利益グループ帰属分は、26 億 4,600 万ユーロに達しました。この業績は、長引く低金利環境、銀行業務のペーパーレス化の進展、変化する顧客行動といった大きな変化に、当行のリテール・バンキング業務が対処する能力を裏付けるものです。

クレディ・アグリコル・グループは、2015 年度第 3 四半期に財務構造を引き続き強化しました。

長期資産に対する長期資金調達の超過額は、1,060 億ユーロへと増加しました。流動性準備金は、2015 年度 9 月 30 日現在で 2,430 億ユーロに達し、また、HQLA 証券は、中央銀行に預け入れていない短期債券の 171%を占めました。当グループとクレディ・アグリコル S.A.の LCR レシオは、2015 年 9 月末現在で 110%を超えました。

クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、2015 年度 9 ヶ月累計期間に、市場及び支店ネットワ

ークにおいてシニア債と Tier 2 によって 258 億ユーロ相当額を調達しました。

2015 年 9 月 30 日現在、クレディ・アグリコル・グループの完全適用後 CET1 レシオは 13.4%となり（同年 6 月末時点と比べて 20 ベーシス・ポイントの上昇）、当グループは、欧州で自己資本比率が最も高い銀行の 1 つに数えられます。当グループは、MREL レシオ及び TLAC レシオの点で好ましい状況にあり、バランスシートサイズの厳格な管理によって適格シニア債を除く MREL レシオが 8.0%[1]、適格シニア債を除いた TLAC レシオが 19.1%となりました。

欧州委員会が採択した委任法令に基づく当グループのレバレッジ・レシオは、2015 年 6 月末現在の 5.4%から上昇して 5.5%となりました。

[1] 規制案に関するクレディ・アグリコル S.A.の最新の理解に基づく計算。

クレディ・アグリコル S.A.

2015 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の財務諸表を検討するため、ジャン・マリ・サンデールを議長とするクレディ・アグリコル S.A.の取締役会が 2015 年 11 月 4 日に開かれました。

2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、9 億 3,000 万ユーロでした。これは、市場に影響を及ぼした 2011 年の流動性危機以降で最も高い水準であり、2014 年度第 3 四半期比で 14.8%増となります。当四半期に計上された特殊要因（DVA running、ローン・ヘッジ、発行体スプレッド、及び Switch）を除くと、基礎純利益グループ帰属分は 10 億 2,700 万ユーロでした。特殊要因について修正再表示した事業部門の純利益グループ帰属分は、10.7%増加しました。

この非常に高い水準の利益は主に、大半の事業部門が達成した力強い事業展開を反映するものです。特殊要因に関して修正再表示した後の事業部門の収益は、当四半期に 1.8%増加しました。これは主に、資産管理・保険部門によってけん引されたものであり、保険部門は比較的低調であった 2014 年度第 3 四半期と比べて特に好調な業績を達成しました。専門金融サービス部門は、その 3 つの事業部門（消費者金融、リース、及びファクタリング）の全てで活動の回復が見られました。国際リテール・バンキング部門も、エジプトを中心に収益を伸ばしました。

この業績は、事業部門の基本的な営業費用の適切な抑制（前四半期比 0.6%減）に支えられたものです。有機的成長の持続という戦略を維持する保険部門を除いて、全ての事業部門が営業費用の低減を記録しました（為替、連結範囲、又は投資による効果を除く）。

もう 1 つの支援要因は、不良債権に関係するリスク関連費用の持続的な低減であり、これは、2015 年度第 3 四半期には年換算で残高の 38 ベーシス・ポイントまで低下しました（2014 年度第 3 四半期比で 12 ベーシス・ポイントの改善）。同じ傾向は大半の事業部門で見られました。すなわち、LCL（2014 年度第 3 四半期の 17 ベーシス・ポイントに対して 7 ベーシス・ポイント）、消費者金融（252 ベーシス・ポイントに対して 155 ベーシス・ポイント）、主にアゴス・デュカトのリスク関連費用の持続的低下（353 ベーシス・ポイントに対して 195 ベーシス・ポイント）、及びカリパルマ（132 ベーシス・ポイントに対して 109 ベーシス・ポイント）です。

但し、リスク関連費用は 2 つの特殊要因の影響を受けました。

地域銀行及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分の持分法適用価額の総額が低下したことにより、2015 年度第 2 四半期に Switch 保証が発動されました。しかし、当四半期に持分法適用価額が、2015 年度第 1 四半期末に計上された金額を上回り、Switch メカニズムの下でクローバックが生じました。これは、地域銀行が計上したリスク関連費用の 1 億 7,300 万ユーロの引当金戻入れと、クレディ・アグリコル S.A.のリスク関連費用の引当金に対する同額の費用計上に反映されました。クレディ・アグリコル S.A.の当四半期の純利益グループ帰属分に対する影響は、税金及び地域銀行の寄与分に対するマイナス影響の控除後で-8,000 万ユーロとなりました。

第二に、米国の経済制裁リストに掲げられ、特定のニューヨーク州法を課される国との一連のドル建て取引に対する調査の後に米国当局と協議して、2015 年 10 月 20 日に連邦当局及びニューヨーク州当局と和解に至りました。和解の対象となるのは、2003 年から 2008 年までに行われた取引です。和解の結果、7 億 8,700 万米ドル（6 億 9,300 万ユーロ）の罰金が課されましたが、既に計上されていた引当金がこれに充当されており、2015 年度下半期の財務諸表への影響はありません。更に、クレディ・

アグリコルは、国際制裁に関する規則について自らの内部手続きとコンプライアンス・プログラムの強化を継続することを誓約しました。また、経済制裁に関する規則の厳格な遵守を図るため、必要とされる範囲でその手続きと統制システムの改善を続けていきます。この目的から、是正費用引当金が 2015 年度第 3 四半期に確保されました。

地域銀行の実績及びユーラゼオ社の業績により、持分法適用子会社からの当四半期の純利益帰属分は高い水準となりました。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 59.5%増の 26 億 3,400 万ユーロとなりました。

これに基づき、年換算の RoTE は 10.4%となります[1]。

2015 年 9 月末現在、クレディ・アグリコル S.A.は自らのソルベンシー・ポジションを強化しました。完全適用後 CET1 レシオは、2015 年 6 月末の水準から 10 ベーシス・ポイント改善して 10.3%となりました。

クレディ・アグリコル S.A.のレバレッジ・レシオは、欧州委員会が採択した委任法令の下では 4.4%でした。

*

社会的・環境的責任

当グループはこのほど、2 つの主な持続可能性指標の対象企業となりました（ベルギーの ESI Excellence Europe 及び STOXX® Global ESG Leaders）。クレディ・アグリコル S.A.はまた、以下の持続可能性ベンチマークのメンバーでもあります。すなわち、FTSE4Good、NYSE-Euronext World 120、Europe 120、Eurozone 120、及び France 20 です。加えて、オランダの格付会社の Sustainalytics は、企業責任の観点から最高クラスの企業として、クレディ・アグリコル S.A.を世界の 413 社の中から第 6 位に格付けしました。最後に、隔月誌「World Finance」が、クレディ・アグリコル S.A.をフランス国内で最高の「持続可能な発展」銀行に格付けしました。これらの格付けは、市場と投資家（特に社会的責任を負う投資家）がクレディ・アグリコルの総合的な CSR パフォーマンスを評価する際に用いるものです。また、こうした格付けに対して当グループの顧客の関心が高まっており、そうした顧客による入札募集で条件の 1 つとなることもあります。

当グループは、気候変動とエネルギー転換のリーダーとして引き続き積極的に行動しています。既にフランス国内では再生可能エネルギー向けの銀行融資の主要な担い手であると共に、エネルギー効率の高い建物向け融資の主要な担い手でもあります。更に、ユーロ建てグリーンボンド発行の世界的リーダーであるほか、低炭素インデックス・トラッカーを最初に販売した資産運用会社でもあるクレディ・アグ

[1] 年換算されていない特殊要因（DVA running、発行体スプレッド、ローン・ヘッジ、訴訟の追加引当金）及び他のいくつかの特殊要因（IFRIC の影響、ユーラゼオの持分法適用寄与分、及び地域銀行の純利益の変動）。

リコルは、国際的な気候変動交渉の一環として、また、COP21 を控えて以下のような公約を新たに掲げました。

- クレディ・アグリコルは、世界銀行が定義する高所得国の石炭火力発電所の新設又は拡張に対して融資を実行しません。これは、炭鉱事業には融資を行わないという当グループの 2015 年 5 月の公約に従うものです。

- クレディ・アグリコルは、法人営業及び投資銀行部門の顧客基準及び気候リスク（特に石炭価格に関係するリスク）を対象にした当行の商品について厳格な審査を順次開始します。

クレディ・アグリコル S.A.はまた、「金融機関による気候行動の主流化」施策を最初に支持した商業銀行です。この施策は、2015 年 12 月にパリで開催される COP21 で正式に打ち出される予定であり、同年 10 月 9 日にリマでペルーとフランスが共同運営した気候関連融資に関する閣僚会議で発表されました。クレディ・アグリコル S.A.は、10 の主な公的融機関と協力して、気候変動問題をそれらの金融機関の戦略にさらに適切に組み入れることを狙いとした 5 つの自主原則を提示しました。

決算スケジュール

2016 年 2 月 17 日	2015 年度第 4 四半期及び通年の決算発表
2016 年 3 月 9 日	中期計画「Strategic Ambition 2020」の発表
2016 年 5 月 12 日	2016 年度第 1 四半期の決算発表
2016 年 5 月 19 日	年次株主総会（パリ）
2016 年 8 月 3 日	2016 年度第 2 四半期及び上半期の決算発表
2016 年 11 月 8 日	2016 年度第 3 四半期の決算発表

本文書全体で、ソルベンシー・データを除く2014 年度の数字は、課徴金の会計処理に対するIFRIC21の影響について修正再表示されています。

Disclaimer

This presentation may include prospective information on the Group, supplied as information on trends. This data does not represent forecasts within the meaning of European Regulation 809/2004 of 29 April 2004 (chapter 1, article 2, §10). This information was compiled from scenarios based on a number of economic assumptions for a given competitive and regulatory environment. Therefore, these assumptions are by nature subject to random factors that could cause actual results to differ from projections. Likewise, the financial statements are based on estimates, particularly for the calculation of market values and asset impairments. Readers must take all of these risk factors and uncertainties into consideration before making their own judgement.

Applicable standards and comparability

The figures presented for the nine-month period ended 30 September 2015 have been prepared in accordance with IFRS as adopted in the European Union and applicable at that date. This financial information does not constitute a set of financial statements for an interim period as defined by IAS 34 "Interim Financial Reporting" and has not been audited.

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15	Change 9M/9M
Revenues	**3,918**	**(2.0%)**	**12,905**	**+7.8%**
Operating expenses before SRF	(2,738)	+2.1%	(8,502)	+2.8%
SRF	-	-	(175)	nm
Gross operating income	**1,180**	**(10.4%)**	**4,228**	**+13.9%**
Cost of risk	(600)	+3.5%	(1,678)	(1.5%)
Operating income	**580**	**(21.4%)**	**2,550**	**+27.1%**
Equity affiliates	552	+82.3%	1,266	x3.3
Net income on other assets	1	(33.3%)	2	(76.6%)
Income before tax	**1,133**	**+8.7%**	**3,818**	**+59.5%**
Tax	(93)	(18.9%)	(810)	+86.6%
Net income from discontinued or held for sale operations	(5)	nm	(23)	nm
Net income	**1,035**	**+11.7%**	**2,985**	**+51.8%**
Non-controlling interests	105	(10.0%)	351	+11.5%
Net income Group share	**930**	**+14.8%**	**2,634**	**+59.5%**

2015 年度第 3 四半期の収益は、前年同期比 2.0%減の 39 億 1,800 万ユーロとなりました。既存社債の再評価、DVA running、及びローン・ヘッジに関する修正再表示後の収益は、39 億 4,400 万ユーロでした。同じ基準による修正再表示後の事業部門収益は、保険事業にけん引されて 1.8%の増加となりました。

2015 年度第 3 四半期の営業費用は、前年同期比 2.1%増の 27 億 3,800 万ユーロでした。連結範囲の影響、ECB の課徴金と保険、LCL の変革計画、及び為替効果を除くと、営業費用は前年同期比 0.2%増とおおむね安定しました。

リスク関連費用は、総額で 6 億ユーロでした。これは、当四半期にクレディ・アグリコル S.A.のリスク関連費用に対して 1 億 7,300 万ユーロのマイナス影響を及ぼした Switch クローバックを含んでいます。この要因についての修正再表示後のリスク関連費用は、ほぼ全ての事業部門と特にアゴス・デュカトのリスク関連費用の低減を反映して、26.3%減少しました。改めて Switch クローバックについて修正再表示した後のリスク関連費用は、2014 年度第 3 四半期から 12 ベーシス・ポイント低下して、年換算では残高の 38 ベーシス・ポイントとなりました。

不良債権残高[1]は、顧客及び銀行間の総ローン残高の 3.7%（2014 年 9 月 30 日現在では 3.6%）に相当する 155 億ユーロでした。特定引当金に対する不良債権の比率は 55.4%でした。一般引当金を含めると、不良債権引当率は 2014 年 9 月 30 日現在の 71.9%に対して 72.6%でした。

[1] クレディ・アグリコル内部取引、未収利息、及びファイナンス・リースを除く。

持分法適用子会社からの純利益帰属分は、当四半期には 5 億 5,200 万ユーロとなりました。これは、地域銀行からの 2 億 5,000 万ユーロ、専門金融サービス部門からの 4,400 万ユーロ（主に自動車ローン提携業関連）、法人営業及び投資銀行部門からの 5,900 万ユーロ、及びユーラゼオ社からの 1 億 8,900 万ユーロをそれぞれ含んでいます。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の 2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、9 億 3,000 万ユーロとなりました。これは、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、及び Switch クローバックの影響に関する修正再表示後で 10 億 2,700 万ユーロとなりました（2014 年度第 3 四半期は、既存社債の再評価、DVA running 及びローン・ヘッジに関する修正再表示後で 7 億 7,200 万ユーロ）。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 59.5%増の 26 億 3,400 万ユーロとなりました。既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、訴訟の追加引当金、及び単一破綻処理基金の影響に関する修正再表示後の純利益グループ帰属分は、29 億 9,100 万ユーロとなりました。2014 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、既存社債の再評価、DVA running、ローン・ヘッジ、Day One FVA の影響、持分法適用子会社での BES の減損処理、及びイタリア中央銀行の株式再評価に関する修正再表示後で 25 億 8,500 万ユーロでした。

ソルベンシー

2015 年 9 月末現在のクレディ・アグリコル S.A.の財務面の健全性は、系列関係にあるクレディ・アグリコル・グループの 13.4%（2015 年 6 月末と比べて 20 ベーシス・ポイントの改善）の完全適用後 CET1 レシオによって、また、自己の 10.3%（同じ期間に 10 ベーシス・ポイント上昇）の完全適用後 CET1 レシオによって裏付けられました。

クレディ・アグリコル S.A.は当四半期中に、持続的に資本を生成する重要な能力を発揮し、CET1 レシオの 20 ベーシス・ポイント増は当四半期の利益に由来します。50%配当及び主要株主を対象とした 100%の株式配当を前提とすると、分配は-6 ベーシス・ポイントと試算されます。レシオはまた、AFS 含み益の減少にも影響され、これにより-5 ベーシス・ポイントとなりました。

当四半期中には、地域銀行（CCI と CCA）及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分の持分法適用価額が、2015 年度第 2 四半期に計上された低下以前の水準を上回る伸びを記録したことを受けて、Switch 保証のクローバックがありました。Switch クローバックの結果、地域銀行によってリスク関連費用について 1 億 7,300 万ユーロの引当金戻入れがありました。クレディ・アグリコル S.A.は、同額のマイナス金額をコーポレート・センターのリスク関連費用に計上しました。全体では、クレディ・アグリコル S.A.は、2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分において 8,000 万ユーロを費用計上しました。

そのため、CET1 レシオに対する AFS 含み益の寄与分は、2015 年 9 月 30 日現在で約 90 ベーシス・ポイントへと低下しました。市場リスクが大幅に低下したことと当四半期の業績を理由に、持分法適用子会社（地域銀行、CAA、BSF、及びユーラゼオ社）に関係するリスク・ウェイト資産が著しく増加し、2015 年度第 3 四半期はリスク・ウェイト資産が適切に管理されました。

2015 年 9 月 30 日現在の合計段階適用レシオは、同年 6 月 30 日現在の 19.2%に対して 19.8%でした。

欧州委員会が採択した委任法令の下でのクレディ・アグリコル S.A.のレバレッジ・レシオは、4.4%[1]（2015 年 6 末現在では 4.3%）となりました。

流動性

クレディ・アグリコル・グループのバランスシート上の現金は、2015 年 6 月末現在の 1 兆 410 億ユーロ及び 2014 年 9 月末現在の 1 兆 340 億ユーロに対して、2015 年 9 月末現在では総額 1 兆 380 億ユーロでした。

長期の利用可能資金に対する長期資金調達の超過額は、2015 年 6 月 30 日現在の 1,030 億ユーロ及び 2014 年 9 月 30 日現在の 890 億ユーロに対して、2015 年 9 月 30 日現在では 1,060 億ユーロでした。超過額は、こうして 2015 年に前四半期比で増加を続け、2014 年 9 月 30 日から 2015 年 9 月 30 日までの間に 170 億ユーロ増加しました。

証券ポートフォリオに関係する評価損益及びヘアーカットを含む流動性準備金は、2015 年 9 月 30 日現在で 2,430 億ユーロに達し、総短期債券の 225%をカバーしました（2015 年 6 月 30 日現在で 213%、2014 年 9 月 30 日現在で 173%）。評価損益及びヘアーカット後の HQLA 証券は、中央銀行に預け入れていない短期債券の 171%を占めました。当グループとクレディ・アグリコル S.A.の LCR レシオは、2015 年 9 月 30 現在で引き続き 110%を上回りました。

クレディ・アグリコル・グループの主な発行体は、2015 年度 9 ヶ月累計期間に市場及び支店ネットワークにおいてシニア債と Tier 2 によって 258 億ユーロを調達しました。クレディ・アグリコル S.A.自体は、シニア債によって 60 億ユーロ相当額、Tier 2（ユーロ、米ドル、日本円、スイスフラン）によって 38 億ユーロ相当額を同期間中にそれぞれ調達しました。クレディ・アグリコル S.A.は 2015 年 9 月 30 日現在、100 億ユーロ（シニア債と劣後債）の中・長期市場資金調達計画（支店ネットワークを除く）の 98%を完了しました。

重要な点として、クレディ・アグリコル S.A.とクレディ・アグリコル・アシュアランスが発行した劣後債は、当年度を通じて積極的に運用されました。更に、当グループは、2015 年 10 月にフランスの住宅ローンの初めての真正譲渡型証券化（総額 100 億ユーロ）を完了しました。

[1] ECB の承認を前提とし、クレディ・アグリコル S.A.のグループ内取引の非ウェイト化に関係する+100 ベーシス・ポイントの影響を伴う。

部門別決算

1. フランス国内のリテール・バンキング

1.1. クレディ・アグリコル地域銀行

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3*	9M-15	Change 9M/9M
Net income accounted for at equity (at ~25%)	**259**	**+4.5%**	**680**	**+1.5%**
Change in share of reserves	(9)	x2.1	163	+10.0%
Share of net income of equity-accounted entities	**250**	**+2.4%**	**843**	**+3.0%**

* Switch クローバックを除く。

当四半期の特徴は、モデルの適合能力を証明する好業績を達成したことです。地域銀行についても、全ての事業分野でバランスの取れた成長を達成するという戦略を引き続き実施しました。

顧客預かり資産は成長を維持し、2015 年 9 月末現在で前年同期比 2.6%増の 6,120 億ユーロを記録しました。この成長には、同年 9 月末現在でのオン・バランスシート預金の 3,630 億ユーロ（前年同期比 3.8%増）とオフ・バランスシートの顧客預かり資産の 2,490 億ユーロ（前年同期比 0.7%増）が含まれます。さまざまなオン・バランスシート預金の伸びは、要求払預金（13.0%増）と定期預金・勘定の減少（7.6%減）を主な要因とするものです。一方、オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、2015 年 9 月末現在で前年同期比 3.4%増を記録した生命保険が引き続きけん引役となりました。

2015 年 9 月末現在のローン残高は、前年同期比 2.2%増の 4,090 億ユーロとなりました。主な成長要因は住宅ローン（3.7%増）であり、また、消費者金融は、残高が 2015 年 6 月末現在の前年同期比 2.2%増に対して 9 月末現在では同 4.1%増を記録して成長を加速しました。中小企業及びスモールビジネス向けローンの市場シェアは、1 年間で 30 ベーシス・ポイント増加しました。

2015 年 9 月末現在の預貸比率は 114%となりました。

2015 年度第 3 四半期の地域銀行の収益（グループ内取引の修正再表示後）は、前年同期比 1.8%増の 33 億 7,700 万ユーロとなりました。この数字には、2014 年度第 3 四半期の-400 万ユーロの費用に対して、住宅購入貯蓄プラン引当金の戻入れである 1,200 万ユーロが含まれています。

当四半期の金利マージンは、住宅購入貯蓄プランを除くと 1.1%減[1]となりました。これは、現在も非常に高い水準にあるローンの条件再交渉と競争の激しい環境から悪影響を受けましたが、引き続き高い水準の早期返済違約金（第 2 四半期の前年同期比 7,300 万ユーロ増に対して、当四半期は前年同期比 9,600 万ユーロ増）によって支えられました。

手数料収入は、生命保険と損害保険の力強い伸び（保険手数料収入は前年同期比 3.9%増）とバンキング・サービス（7.3%増 [1]）にけん引されて、当四半期は前年同期比 5.1%[1] という大幅増を達成しまし

[1] 外貨の購入及び売却（年間約 2,500 万ユーロ）における損益の純金利マージンから手数料収入への分類変更に関して修正再表示後。

た。

当四半期の営業費用は、前年同期比で 1.3%増加しましたが、2015 年度 9 ヶ月累計期間では前年同期比で 0.5%増と引き続き抑制されています。

2015 年度第 3 四半期の地域銀行のリスク関連費用は+6,700 万ユーロでした。この数字には、契約条項に従った Switch クローバックに関する+1 億 7,300 万ユーロの戻入れが含まれます。クローバックが生じたのは、地域銀行（CCI と CCA）及びクレディ・アグリコル・アシュアランスに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分法適用投資の総価額が、2015 年 9 月 30 日に同年 3 月 31 日時点（つまり、2015 年度第 2 四半期の低下前）の数字を上回ったためです。Switch クローバックを除くと、リスク関連費用は、2014 年度第 3 四半期の残高の 10 ベーシス・ポイントに対して、11 ベーシス・ポイントと非常に低い水準に留まりました。不良債権比率は、2014 年 9 月末現在の 2.5%に比べて安定する一方、一般引当金を含む引当率は 100%を超える水準を維持しました。

したがって、2015 年度第 3 四半期の営業利益は、Switch クローバックを除くと前年同期比 1.7%増の 15 億 6,700 万ユーロでした。

全体では、クレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分に対する地域銀行の寄与は、2015 年度第 3 四半期に 2 億 5,000 万ユーロとなり、これは、Switch クローバックを除くと前年同期比 2.4%増となります。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の地域銀行の営業利益は、SRF の影響を除くと前年同期比 3.1%増の 40 億 9,700 万ユーロを記録しました。同じ期間のクレディ・アグリコル S.A.の純利益帰属分に対する地域銀行の寄与は、前年同期比 3.0%増の 8 億 4,300 万ユーロでした。なお、この寄与分には、2014 年度 9 ヶ月累計期間の 1 億 4,800 万ユーロから 10.0%増となる 1 億 6,300 万ユーロにのぼる地域銀行の準備金シェアの変動分が含まれています。

1.2. LCL

2015 年度第 2 四半期現在、LCL の連結対象範囲には、事業活動（顧客預金及びローン残高）と業績の両面で Banque Française Commerciale Antilles Guyane（BFCAG）が含まれています。

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3*	9M-15	Change 9M/9M*
Revenues	**891**	**(1.8%)**	**2,757**	**(2.3%)**
Operating expenses excluding SRF, transformation plan and BFCAG	(612)	(0.2%)	(1,864)	(1.1%)
SRF impact	-	-	(12)	-
Transformation plan impact	(14)	+68.0%	(33)	+62.9%
BFCAG integration impact	(8)	-	(27)	-
Gross operating income	**257**	**(7.3%)**	**821**	**(7.6%)**
Cost of risk	(19)	(53.7%)	(83)	(50.2%)
Operating income	**238**	**+1.4%**	**738**	**+2.5%**
Income before tax	**238**	**+1.1%**	**737**	**+2.3%**
Tax	(82)	(4.1%)	(267)	+2.1%
Net income	**156**	**+4.1%**	**470**	**+2.4%**
Non-controlling interests	7	+6.8%	23	+3.1%
Net income Group share	**149**	**+3.1%**	**447**	**+2.0%**

* BFCAG を除いた変動。

2015 年度第 3 四半期は、預金（特に要求払預金）の堅調な伸びと共に住宅ローン部門での活動拡大により、これまでの四半期と同様の傾向を示しました。

2015 年 9 月末現在のローン残高は、前年比 6.4%増の 961 億ユーロでした。この伸びは、前年同期比 8.1%増の 624 億ユーロを記録した住宅ローンにけん引されたものです。中小企業及びスモールビジネス向けのローン残高は、2015 年 9 月末時点で前年同期比 3.9%増の 271 億ユーロでした。同じ期間の消費者金融残高は 1.9%増を記録しました。

顧客預かり資産は、2015 年 9 月末現在で前年比 2.4%増の 1,713 億ユーロとなりました。成長をけん引したのは、主にオン・バランスシート預金（前年比 2.8%増）と特に要求払預金の大幅な増加（前年同期比 13.3%増）でした。一方、オフ・バランスシート資産は、1 年間で 1.9%増加し、生命保険からの大きな資金流入により好調を維持しています（1 年間で 3.5%増）。

2015 年 9 月末現在の預貸比率は 114%でした。

当四半期の LCL の収益は、BFCAG を除くと、前年同期比 1.8%減の 8 億 9,100 万ユーロでした。当初の適正なマージンと当四半期中に受領した早期返済違約金にもかかわらず、高い水準にあるローンの条件再交渉が純金利マージン全体への圧力となりました。更に、2014 年度第 3 四半期は資金運用から大きな収益を得ていました。最終的に、LCL は当四半期に、住宅購入貯蓄プランについて 400 万ユーロの戻入れを計上しました（2014 年度第 3 四半期は 1,800 万ユーロの費用）。

SRF、変革計画、及び BFCAG の連結化を除いた 2015 年度第 3 四半期の営業費用は、前年同期比で安定を維持し、2015 年度 9 ヶ月累計期間では 1.1%減となりました。

当四半期のリスク関連費用は、前年同期比 53.7%減となり、これは残高に対して 7 ベーシス・ポイントと低い水準です。2015 年 9 月末現在の不良債権比率は 2.2%で、不良債権引当率（一般引当金を含む）は、2014 年 9 月末現在の 73.6%に対して 72.8%でした。

全体では、純利益グループ帰属分は、2014 年度第 3 四半期比 3.1%増となる 1 億 4,900 万ユーロでした（BFCAG を除く）。

2. 国際リテール・バンキング

2015 年度第 3 四半期の**当部門の純利益グループ帰属分**は、2014 年度第 3 四半期の 5,000 万ユーロに対して 6,900 万ユーロでした。

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15	Change 9M/9M
Revenues	**636**	**+0.8%**	**1,973**	**(0.8%)**
Operating expenses before SRF	(354)	(1.3%)	(1,094)	(0.5%)
SRF	-	-	(8)	-
Gross operating income	**282**	**+3.6%**	**871**	**(2.2%)**
Cost of risk	(146)	(6.6%)	(444)	(20.1%)
Operating income	**136**	**+17.3%**	**427**	**+27.7%**
Equity affiliates	2	nm	5	nm
Net income on other assets	2	nm	2	nm
Income before tax	**140**	**+20.4%**	**434**	**nm**
Tax	(40)	(1.2%)	(143)	+35.9%
Net income from discontinued or held for sale operations	(4)	nm	(21)	**nm**
Net income	**96**	**+27.0%**	**270**	**nm**
Non-controlling interests	27	+3.1%	83	+32.9%
Net income Group share	**69**	**+39.3%**	**187**	**nm**

イタリアでは、カリパルマが 2015 年度第 3 四半期に引き続き大きく業績を伸ばしました。2015 年 9 月末現在の顧客預かり資産は、前年同期比 3.8%増の 949 億ユーロでした。この伸びは、当グループのさまざまなイタリア子会社間でのクロスセリングの増加が一部寄与しました。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は、(生命保険と投資信託資産の 12.7%の伸びを含めて)前年同期比 6.0%増を記録しました。これは、4 四半期に亘り非常に順調な伸びを達成した後の好業績です。オン・バランスシート預金は安定を維持しました。顧客ローン残高は、住宅ローンの 6.2%増にけん引されて、2015 年 9 月末現在で前年同期比 1.4%増となる 338 億ユーロに達しました。したがって、預貸比率(特定引当金の控除後)は 90%で引き続き安定しました。更に、カリパルマの流動性ポジションは、当四半期中に行われた総額 10 億ユーロのカバードボンド発行により強化されました。

2015 年度第 3 四半期の収益は、前年同期比 0.8%減の 4 億 600 万ユーロとなりました。収益には、CVA の変更に関連する 400 万ユーロのマイナス影響が含まれます。純金利マージンは、低金利環境の中で 2014 年度第 3 四半期と比べて安定を維持しました。更に、手数料収入は、2014 年度第 3 四半期の新規預金の大幅増に伴う強力なベースライン効果により悪影響を受けました。

営業費用は、前年同期比で安定しました（0.3%増）。2015 年度 9 ヶ月累計期間のカリパルマのコスト比率は、（SRF の影響を除いて）前年同期比で 2.6 ポイント改善して 54.2%となりました。

2015 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、不良債権に再分類されるローンの減少により、前年同期比 13.0%減の 9,500 万ユーロとなりました。合計残高に対する不良債権比率は 13.8%、引当率（一般引当金を含む）は 45.5%でした。

2015 年度第 3 四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分は、2014 年度第 3 四半期の 3,200 万ユーロに対して 3,800 万ユーロでした。国内連結対象範囲をベースとすると、当四半期のカリパルマの純利益グループ帰属分は、5,100 万ユーロとなりました。

2015 年度 9 ヶ月累計期間のカリパルマの純利益グループ帰属分は、前年同期の 9,600 万ユーロに対して 1 億 3,100 万ユーロでした（国内連結対象範囲をベースとすると 1 億 9,200 万ユーロ）[1]。この伸びの主な要因は、好調な収益（前年同期比 4.4%増）に加えて、営業費用の安定とリスク関連費用の低下（8.2%減）でした。

当グループの他の海外リテール・バンクも順調に業績を伸ばしました。顧客預かり資産は、2015 年 9 月末現在で前年同期比 10.8%増となる 131 億ユーロを記録しました。オン・バランスシート預金は、前年同期比 6.6%増となる 114 億ユーロでした。オフ・バランスシートの顧客預かり資産は特に拡大し、49.1%増の 17 億ユーロに達しました。ローン残高は、2015 年 9 月末現在で前年同期比 2.6%増の 103 億ユーロを達成しました。2015 年 9 月末時点でのローンに対するオン・バランスシート預金の超過額は 18 億ユーロとなりました。

2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、エジプトでの堅調な業績（純利益グループ帰属分は前年同期比 95%増）を受けて 3,100 万ユーロを記録しました。ポーランドでは、大幅なコスト削減が収益に対する低金利の影響を十分に補う一方で、リスク関連費用は、2014 年度第 3 四半期に記録した低水準を上回ったものの抑制されました。CA ウクライナは、非常に厳しい国内状況にもかかわらず収益性を確保しました。クレディ・デュ・モロッコは、2015 年度第 3 四半期も引き続き不良債権引当率を改善しました。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は 5,600 万ユーロでした。収益は、前年同期比 1.3%増となり、営業費用も抑制されました。リスク関連費用は、前年同期比 18.1%増の 1 億 5,100 万ユーロでした。なお、2014 年度 9 ヶ月累計期間には、持分法適用会社からの利益シェアにおいて BES 持分の価値下落に伴う影響（-7 億 800 万ユーロ（純額））が含まれています。

イタリアでのクレディ・アグリコル S.A.の純利益グループ帰属分は、**2015 年度 9 ヶ月累計期間**については 3 億 5,900 万ユーロとなりました。

---

[1] カリパルマがその国内連結財務諸表（2013 年 12 月 31 日現在）で計上した項目と 2014 年度第 1 四半期にクレディ・アグリコル S.A.が計上した項目（すなわち、収益の+8,000 万ユーロ（このうち、イタリア中央銀行による株式再評価が+9,200 万ユーロで、リスク関連費用が-1 億 900 万ユーロ）、及びこれらの項目に関連する所得税を除く。

3. 資産管理と保険

当部門には、資産運用、保険、プライベート・バンキング、及び資産運用サービスが含まれます。

2015 年 9 月末現在の資産運用額は、アムンディの 658 億ユーロ、生命保険の 55 億ユーロ、プライベート・バンキングの 33 億ユーロをはじめとする全てのセグメントで 746 億ユーロの資金流入額（純額）があり、2014 年 12 月末と比較すると 872 億ユーロ増加しました。堅調な業績に加えて、当部門は、73 億ユーロに上るマーケットと為替のプラス効果と、資産管理での 53 億ユーロの連結効果の恩恵を受けました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の合計資産運用額は、2015 年 9 月末現在で、前年同期比 6.9%増の 1 兆 3,550 億ユーロとなりました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の当部門の純利益グループ帰属分は、当四半期の 4 億 3,800 万ユーロを含めて、2014 年度第 3 四半期比で 8.6%増となる 12 億 9,700 万ユーロとなりました。

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15	Change 9M/9M
Revenues	1,377	+12.1%	4,250	+11.6%
Operating expenses	(644)	+3.8%	(2,072)	+7.2%
Gross operating income	**733**	**+20.6%**	**2,178**	**+16.1%**
Cost of risk	-	(95.5%)	(22)	(52.4%)
Operating income	**733**	**+21.0%**	**2,156**	**+17.8%**
Equity affiliates	7	+33.3%	19	+51.6%
Net income on other assets	-	nm	7	+7.8%
Income before tax	**740**	**+21.0%**	**2,182**	**+18.0%**
Tax	(267)	+58.0%	(775)	+32.2%
Net income from discontinued or held for sale operations	-	nm	1	-
Net income	**473**	**+6.9%**	**1,408**	**+11.5%**
Non-controlling interests	35	(10.5%)	111	+3.7%
Net income Group share	**438**	**+8.6%**	**1,297**	**+12.2%**

資産運用部門では、アムンディが 11 月 2 日に新規株式公開（IPO）を実施しました。アムンディに対するクレディ・アグリコル S.A.の持分は、ほぼ同じ水準で維持されることになります。

9 月末時点でのアムンディの資産運用額は、困難な市場環境の中で堅調に事業を展開して 9,520 億ユーロとなりました。当四半期の新規資金流入額（純額）は 192 億ユーロでした。2015 年度 9 ヶ月累計期間の新規資金流入額（純額）は 658 億ユーロとなり、このうちの 60%は、特にフランスを除く欧州とアジアからもたらされました。この流入額のうち、主に債券、分散投資商品、及び ETF 商品などの長期資産が 350 億ユーロ、現金が 308 億ユーロをそれぞれ占めました。事業活動は、全ての顧客セグメントによってけん引されました。リテール・セグメントは、当四半期の個人顧客セグメント（合弁事業を除く）の鈍化に伴い、343 億ユーロの新規流入額（純額）となりました。機関投資家及び企業セグメントでは、新規流入額（純額）が 315 億ユーロを記録しました。マーケットと為替のプラス効果は、2015 年度 9 ヶ月累計期間に 34 億ユーロに達し、これにより 2015 年 9 月末時点の資産運用額は 9,520 億ユーロに増加しました。資産運用額は、2014 年 12 月末と比べて 8.5%増、1 年間では 11.5%増となりました。

2015 年度第 3 四半期のアムンディの収益は、非常に好調な業績と保証料を理由に特に目覚ましい成長を記録した前年同期と比べて 10.2%減の 3 億 7,700 万ユーロとなりました。純利益は前年同期比 15.4%減の 1 億 1,900 万ユーロ、純利益グループ帰属分が 9,300 万ユーロでした。2015 年度 9 ヶ月累計期間については、その寄与分は、前年同期比 8.3%増の 3 億 8,800 万ユーロに達しました。この期間のこうした増加は主に、資産運用額の伸びと良好な利ざやによるもので、収益の前年同期比 6.0%増に反映されています。2015 年度第 3 四半期の営業費用は 2 億 500 万ユーロでした。営業費用は、同一条件の下（Bawag Invest を除く）で為替効果を除くと、前年同期比 3.6%減でした。同じ条件でのコスト比率は、52.7%と高い競争力を維持しました。SRF の影響と為替効果を除いた同一条件の下（Bawag Invest を除く）での営業費用は、2015 年度 9 ヶ月累計期間では前年同期比 3.8%増となり、また、コスト比率は 51.8%でした。

資産運用サービス部門では、**CACEIS** は、株式市場の低迷と変動の大きい金利という環境から影響を受けました。カストディー資産は、2015 年 9 月末時点から 1.2%減の 2 兆 3,480 億ユーロとなる一方、資産管理額は 5.9%増の 1 兆 4,430 億ユーロとなりました。

したがって、2015 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の収益がそれぞれ 3.0%、4.8%伸びたことを要因として、純利益グループ帰属分は、当四半期では 23.0%増の 2,500 万ユーロ、9 ヶ月累計期間では 16.0%増の 6,600 万ユーロとなりました。

プライベート・バンキング部門では、2015 年度 9 ヶ月累計期間に新規資金流入額（純額）が 33 億ユーロとなったことを主な要因として、2015 年 9 月末時点の運用資産額は、2014 年 12 月末時点から 3.8%増加して 1,469 億ユーロとなりました。

2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、前年同期の 2,000 万ユーロに対して 2,400 万ユーロでした。2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 42.2%増の 7,000 万ユーロとなりました。

保険部門では、2015 年度第 3 四半期及び 9 ヶ月累計期間の保険料収入がそれぞれ 72 億ユーロ、237 億ユーロとなりました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の貯蓄/退職保険及び死亡・高度障害保険への新規資金流入額（純額）は、フランスでの 41 億ユーロを含めて 64 億ユーロを記録しました。

貯蓄/退職保険セグメントの 2015 年度第 3 四半期の保険料収入は、前年同期の 59 億ユーロから 2.1%減となる 58 億ユーロでした。運用資産額は、2015 年 9 月末時点で前年同期比 4.5%増の 2,561 億ユーロとなりました。ユーロ資金は前年同期比 4.4%増の 2,075 億ユーロとなる一方、ユニット・リンク型ファンドは前年同期比 5.0%増の 486 億ユーロでした。2015 年度 9 ヶ月累計期間の新規資金流入額（純額）に占めるユニット・リンク型ファンドのシェアは、前年比で 8.5 ポイント増となる 23.7%、前年比では安定的（0.1 ポイント増）となる運用資産の 19.0%でした。

死亡・高度障害保険/健康保険/団体信用保険セグメントでは、2015 年度第 3 四半期の保険料収入は、これら 3 つの分野全てで成長を達成して前年同期比 7.9%増の 9 億 1,100 万ユーロとなりました。保険料収入は、住宅ローン向け団体信用保険（21.0%増）及び死亡・高度障害保険（10.4%増）の力強い成長により増加しました。

2015 年度第 3 四半期の損害保険の保険料収入は、前年同期比 4.1%増の 5 億 500 万ユーロでした。この主な要因は、農業・スモールビジネス、自動車、及び住宅保険の各セグメント（それぞれ

13.3%、11.5%、7.6%の増加）で特にフランス（パシフィカ）における新たな事業成長の持続でした。保険料収入に対する（請求額+営業費用）の比率として定義されるコンバインドレシオ（再保険後）は、更に改善して 95.3%となりました。

2015 年度第 3 四半期の保険部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の保険料収入が通常を下回る水準であったことが一因となり、前年同期比 17.5%増の 2 億 9,600 万ユーロとなりました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、前年同期比 10.5%増の 8 億 5,700 万ユーロでした。

4. 専門金融サービス

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15	Change 9M/9M
Revenues	**661**	**+1.9%**	**1,972**	**(2.0%)**
Operating expenses excluding SRF	(318)	(2.4%)	(987)	(2.0%)
SRF impact	-	-	(17)	-
Gross operating income	**343**	**+6.2%**	**968**	**(3.7%)**
Cost of risk	(156)	(38.0%)	(544)	(31.5%)
Operating income	**187**	**x2.6**	**424**	**x2.0**
Share of net income of equity-accounted entities	44	+16.1%	132	+24.2%
Income before tax	**231**	**x2.1**	**556**	**+75.6%**
Tax	(60)	x4.5	(150)	x2.7
Net income from discontinued or held for sale operations	-	nm	(1)	nm
Net income	**171**	**+77.2%**	**405**	**+59.9%**
Non-controlling interests	28	+68.2%	69	x2.6
Net income Group share	**143**	**+79.1%**	**336**	**+48.3%**

専門金融サービス部門には、フランスのクレディ・アグリコル・コンシューマー・ファイナンスと国外のその子会社又は提携企業、及びクレディ・アグリコル・リーシング&ファクタリングが含まれます。

2015 年度第 3 四半期の当部門の純利益グループ帰属分は、前年同期の 8,000 万ユーロに対して 1 億 4,300 万ユーロとなりました。2015 年度 9 ヶ月累計期間の純利益グループ帰属分は、SRF 向けの 1,600 万ユーロの費用を含めて 3 億 3,600 万ユーロでした。

消費者金融部門では、クレディ・アグリコル・グループのバンキング・ネットワークと自動車ローン提携事業がけん引役となり、合計組成額は 2014 年度第 3 四半期比 15.5%増を記録しました。管理消費者信用残高は、2015 年 6 月末以降も 700 億ユーロを超える水準を維持しています。2014 年度第 4 四半期にアゴス・デュカトが売却した不良債権の修正再表示後の管理消費者信用残高は、1 年間で 3.4%増となりました。残高の地理的な内訳は、これまでの四半期と変わらず、フランスが 38%、イタリアが 32%、その他の諸国が 30%でした。更に、CACF は、その外部資金調達手段を引き続き多様化しており、力強い貯蓄流入額が主に寄与してその比率は 2015 年 9 月末時点で 65%に達しました。

2015 年度第 3 四半期の CACF の収益は、前年同期比 2.2%増の 5 億 3,100 万ユーロでしたが、これは主に連結残高の減少によるものでした（2014 年度第 4 四半期にアゴス・デュカトが売却した不良債権の修正再表示後で前年同期比 1.4%減）。自動車ローン提携事業も、持分法適用子会社の寄与が 16.1%増となったことで CACF の収益性に寄与しました。

営業費用は、前年同期比 2.1%増の 2 億 4,800 万ユーロとなりました。

リスク関連費用は、アゴス・デュカトでの回復を主な理由として大幅に減少しました。2015 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、このイタリア子会社が大きく寄与して前年同期比 39.2%減の 1 億 4,000 万ユーロでした。当四半期のアゴス・デュカトのリスク関連費用は、前年同期比 47.6%減の 6,600 万ユー

ロでした。2015 年 9 月末現在のアゴス・デュカトの不良債権比率は 11.4%（2014 年 9 月末現在では 13.6%）で、不良債権引当率は一般引当金を含めて 98.3%でした。フランスでは、ポートフォリオの質が引き続き改善されて、リスク関連費用が減少しました。全体では、2015 年度第 3 四半期の CACF のリスク関連費用は、アゴス・デュカトを除いた CACF の 131 ベーシス・ポイント及びアゴス・デュカトの 195 ベーシス・ポイントを含めて 155 ベーシス・ポイント（年間）となりました（2014 年度第 3 四半期は 252 ベーシス・ポイント）。CACF の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 3 四半期の 5,700 万ユーロに対して 1 億 1,400 万ユーロとなりました。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の CACF の純利益グループ帰属分は、SRF 向けの-1,000 万ユーロを含めて、前年同期の 1 億 6,000 万ユーロに対して 2 億 5,900 万ユーロでした。この力強い成長は、リスク関連費用の大幅減（33.2%減）、SRF を除いた費用の減少（2.0%減）、及び持分法適用会社の好調な業績（24.3%増）によるもので、収益の限定的な低下（1.6%減）を大幅に補うことになりました。

リーシング及びファクタリング部門は、好調な業績を維持しました。当四半期のリース・ファイナンスの組成は、前年同期比で 23.0%増を記録しました。残高は、2014 年 12 月末以降も安定しています。2015 年度第 3 四半期の買取売掛債権は、前年同期比 5.1%増の 159 億ユーロとなりました。

2015 年度第 3 四半期の CAL&F の収益は、前年同期比 0.7%増の 1 億 3,000 万ユーロとなりました。当四半期の営業費用は 3.5%減の 7,000 万ユーロでした。リスク関連費用は、2014 年度第 3 四半期の 2,200 万ユーロに対して 1,600 万ユーロと低い水準に抑えられました。全体では、CAL&F の純利益グループ帰属分は、前年同期の 2,300 万ユーロに対して 2,900 万ユーロでした。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の CAL&F の純利益グループ帰属分は、2014 年度 9 ヶ月累計期間の 6,700 万ユーロに対して、SRF の拠出額（-600 万ユーロ）を含めて 7,700 万ユーロでした。この中には、CAL ヘラスの売却に関連する非継続事業についての 1,500 万ユーロの損失が含まれています。

5. 法人営業及び投資銀行（CA-CIB）

2015 年度第 3 四半期の法人営業及び投資銀行の純利益グループ帰属分は、2 億 8,700 万ユーロとなりました。ローン・ヘッジ（+2,200 万ユーロ）及び DVA running の影響（+900 万ユーロ）の修正再表示後の純利益グループ帰属分は、前年同期比 2.7%減の 2 億 5,600 万ユーロとなりました。ファイナンス事業は、修正再表示した純利益グループ帰属分に 2 億 4,700 万ユーロ寄与し（2014 年度第 3 四半期は 1 億 9,300 万ユーロ）、また、資本市場及び投資銀行部門は 900 万ユーロ寄与しました（2014 年度第 3 四半期は 7,000 万ユーロ）。

非継続事業は、現時点で資本市場及び投資銀行部門又はファイナンス事業に含まれており、また、SFS（仕組み金融ソリューション）は、2015 年 1 月 1 日にファイナンス事業から資本市場及び投資銀行部門への移行が行われました。更に、ファイナンス事業の範囲内で、グローバル・コモディティ・ファイナンスは、国際貿易・取引銀行部門の創設の一環として、2015 年 6 月 30 日（同年 1 月 1 日に遡及して発効）に商業銀行の仕組み金融部門へと移行が行われました。これに従って、2014 年度のデータは修正再表示されました。

CA-CIB の合計（非継続事業を含む）

(in millions of euros)	Q3-15	Q3-15*	9M -15	9M-15*	Change Q3*/Q3*
Revenues	**926**	**876**	**3,440**	**3,302**	**(7.7%)**
o/w Financing activities	*538*	*502*	*1,697*	*1,640*	*(3.8%)*
o/w Capital markets and investment banking	*388*	*374*	*1,743*	*1,662*	*(12.3%)*
Operating expenses excl. SRF	(570)	(570)	(1,779)	(1,779)	+3.2%
Impact SRF	-	-	(77)	(77)	-
Gross operating income	**356**	**306**	**1,584**	**1,446**	**(22.8%)**
Cost of risk	(78)	(78)	(543)	(193)	+20.8%
Operating income	**278**	**228**	**1,041**	**1,253**	**(31.4%)**
Share of net income of equity-accounted entities	59	59	78	78	+17.2%
Net income on other assets	-	-	1	1	-
Income before tax	**337**	**287**	**1,120**	**1,332**	**(25.6%)**
Tax	(42)	(24)	(414)	(365)	(79.2%)
Net income from discontinued or held for sale operations	(1)	(1)	(2)	(2)	nm
Net income	**294**	**262**	**704**	**965**	**(3.1%)**
Non-controlling interests	7	6	15	21	(20.9%)
Net income Group share	**287**	**256**	**689**	**944**	**(2.7%)**

* 収益におけるローン・ヘッジと DVA running の影響、及び 2015 年度のリスク関連費用における訴訟の追加引当金について修正再表示。ローン・ヘッジ、DVA running、FVA Day1、及び CVA/DVA 手法の変更（2014 年度）について修正再表示。

2015 年度第 3 四半期の**法人営業及び投資銀行**の収益は、9 億 2,600 万ユーロを記録しました。ローン・ヘッジと DVA running の影響について修正再表示すると、収益は、前年同期比 7.7%[1]減の 8 億 7,600 万ユーロでした。この変動は、現在も続く不利な環境と債券市場で特に低迷していた顧客の需要を反映しています。

2015 年度第 3 四半期の**ファイナンス事業**の収益は、前年同期比 3.8%減の 5 億 3,800 万ユーロ（ローン・ヘッジの影響を除くと 5 億 200 万ユーロ）となりました。当四半期のストラクチャード・ファイナンスの収益は 2 億 5,200 万ユーロとなり、これは、前年同期と比べてほぼ安定しており、競争の激しい環境でのクレディ・アグリコル CIB の堅調な事業展開を反映しています。商業銀行部門の収益は、特にコモディティ及び石油の分野で不利な経済環境が続いたことで、当四半期は前年同期比 6.0%減の 2 億 5,000 万ユーロでした。

クレディ・アグリコル CIB は、航空機ファイナンス部門で引き続き世界第 1 位を維持しました（出典：Air Finance Database）。シンジケーション部門では、CACIB は、フランスでの主幹事業務で第 2 位となったほか（出典：トムソン・ファイナンシャル）、西ヨーロッパ圏での LBO 及び MBO の主幹事業務でも第 2 位となりました。また、EMEA 圏でのプロジェクトファイナンス・アレンジメントで第 4 位から第 3 位に上昇し、米州では第 3 位を維持しました。クレディ・アグリコル CIB はまた、2015 年ユーロマネー・アワード・フォー・エクセレンスにおいて「ベスト・インフラストラクチャ・ハウス」賞を授与されました。

事業環境の低迷と金融市場の混乱の中で、2015 年度第 3 四半期の資本市場及び投資銀行部門の収益は、3 億 8,800 万ユーロとなりました。DVA の影響を除いた収益は、前年同期比 12.3%[1] 減の 3 億 7,400 万ユーロとなりました。金利デリバティブ、資金取引、及び外国為替の分野での好調な業績にもかかわらず、当四半期の実績は、困難な市況が続いたことで鈍化しました。特に債券市場は、引き続き不振を極めました。市場リスクは非常に低い水準を維持し、2015 年度第 3 四半期の平均最大損失予想額（VaR）は、前四半期の 1,400 万ユーロに対して 1,200 万ユーロでした。

債券発行では、クレディ・アグリコル CIB は、欧州の ABCP 証券発行で第 1 位を維持し（出典：CP ウェア）、また、国際機関債券、ソブリン債、及びユーロ建てスープラナショナル債券の発行では世界第 3 位を維持しました（出典：トムソン・ファイナンシャル）。CACIB は、全ての通貨を合わせたスープラナショナル債券の発行では世界第 3 位にランクされています（出典：トムソン・ファイナンシャル）。クレディ・アグリコル CIB はまた、2015 年度第 3 四半期に自行名義で行った 8 件の債券発行を含めて、グリーンボンドの発行では第 2 位となっています（出典：クレディ・アグリコル CIB）。

法人営業及び投資銀行部門の 2015 年度第 3 四半期の**営業費用**は、前年同期比で 3.2%増の 5 億 7,000 万ユーロとなりましたが、恒常為替レートではある程度安定していました（1.3%減）。

2015 年度第 3 四半期の**リスク関連費用**は、当四半期中に重大な要因がなかったことで、前年同期の -6,500 万ユーロに対して-7,800 万ユーロでした。OFAC に関しては、米国の連邦政府当局及びニューヨーク州当局との間で合意が成立し、罰金に関連して 2015 年度上半期の財務諸表に新たな影響が及ぶことはありません。なお、OFAC に関連する 3 億 5,000 万ユーロの追加訴訟引当金は、2015 年度第 2 四半期に計上されました。

---

[1] ローン・ヘッジ、DVA running の影響、FVA Day1、及び 2014 年度の CVA/DVA 手法の変更について修正再表示。

2015 年度第 3 四半期の**持分法適用会社からの利益シェア**は、バンク・サウジ・フランジの好業績が主に寄与して、前年同期比 17.2%増の 5,900 万ユーロとなりました。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の経済・金融環境は、大手企業及び投資銀行にとっては変動が激しく、不安定な状況が続きました。それにもかかわらず、当年度上半期の非常に好調な業績に伴い、クレディ・アグリコル CIB は、この 9 ヶ月累計期間に微増を達成しました。ローン・ヘッジと DVA running の影響を修正再表示し、2015 年度第 2 四半期のリスク関連費用に計上された訴訟の追加引当金の影響を除くと、2015 年度 9 ヶ月累計期間の法人営業及び投資銀行部門の純利益グループ帰属分は、9 億 4,400 万ユーロとなりました（前年同期比 1.3%増）。なお、この数字には、単一破綻処理基金（SRF）に対する 7,700 万ユーロの拠出金と、当年度上半期に計上された 2 行（UBAF とエリプソ）に対する持分の-1 億 1,000 万ユーロの減損費用が含まれます。

2015 年度 9 ヶ月累計期間の**収益**は、恒常為替レートで前年同期比 12.4%増の 34 億 4,000 万ユーロでした。すなわち、ローン・ヘッジ（+5,700 万ユーロ）及び DVA running の影響（+8,100 万ユーロ）の修正再表示後では、収益は、不安定で停滞した環境を反映して、前年同期比 8.2%増[1]、恒常為替レートでは 0.8%増となりました。

営業費用は、2015 年の単一破綻処理基金（SRF）への初回拠出分を除くと、前年同期比 5.6%増の 7,700 万ユーロとなりました。SRF の影響を除き、通貨のマイナス効果について修正再表示すると、営業費用は 3.0%増でした。

2015 年度第 2 四半期に計上した訴訟の追加引当金の 3 億 5,000 万ユーロを除くと、2015 年度 9 ヶ月累計期間の**リスク関連費用**は、1 億 9,300 万ユーロに抑制されました。

[1]ローン・ヘッジ、DVA running の影響、FVA Day1、及び 2014 年度の CVA/DVA 手法の変更について修正再表示。

6. コーポレート・センター

なお、2015 年度第 2 四半期には、Banque Française Commerciale Antilles Guyane（BFCAG）が、コーポレート・センターから LCL に移行しました。

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15	Change 9M/9M
Revenues	**(573)**	**+65.1%**	**(1,487)**	**+0.3%**
*o/w capital and liquidity management**	*(578)*	*+4.0%*	*(1,782)*	*+8.5%*
o/w net costs allocated to equity stakes funding and to debt	*(315)***	*(13.0%)*	*(988)***	*(14.5%)*
o/w Switch	*(186)*	-	*(558)*	-
o/w issuer spreads	*(26)*	*nm*	*172*	*nm*
o/w other	*32*	*(78.1%)*	*123*	*(67.6%)*
Operating expenses excl. SRF and new taxes ***	(218)	+7.5%	(635)	+0.4%
Impact SRF and new taxes ***	-	-	(72)	-
Gross operating income	**(791)**	**+43.9%**	**(2,194)**	**+3.7%**
Cost of risk	(201)	x 3.1	(42)	nm
Operating income	**(992)**	**+61.4%**	**(2,236)**	**+7.2%**
Share of net income of equity-accounted entities	190	x 8	189	nm
Net income on other assets	(1)	(100.0%)	(7)	nm
Income before tax	**(803)**	**+28.3%**	**(2,054)**	**(0.2%)**
Tax	398	+30.6%	939	+5.6%
Net income	**(405)**	**+18.4%**	**(1,115)**	**(4.7%)**
Non-controlling interests	1	(97.7%)	50	(36.9%)
Net income Group share	**(406)**	**+18.4%**	**(1,165)**	**(6.7%)**
Net income Group share excl. issuer spreads	**(389)**	**+1.0%**	**(1,276)**	**+15.5%**
Net income Group share excl. issuer spreads , SRF and new taxes* **			**(1,214)**	**+9.9%**

* 中央機関及びトレジャラーとしての資本、金利、流動性、及び債券運用のコスト

** 調達類型（流動性、資本、債券）別の資金調達コストの配分見直しについて 2014 年度に修正再表示。

*** 2015 年度第 1 四半期については、SRF（-4,600 万ユーロ）、ECB 及び SRB の新たな課徴金（-400 万ユーロ）、新たに納付義務が生じた C3S の税金（-2,200 万ユーロ）。

2015 年度第 3 四半期のコーポレート・センターの純利益グループ帰属分は、2014 年度第 3 四半期の-3 億 5,100 万ユーロに対して-4 億 600 万ユーロとなりました。発行体スプレッドの修正再表示後の純利益グループ帰属分は、-3 億 8,900 万ユーロでした。

この業績には、Switch 保証のクローバック（リスク関連費用の 1 億 7,300 万ユーロ）、OFAC の是正

計画に関連する是正費用の引当金（-2,000 万ユーロ）、及びユーラゼオ社の寄与分（持分法適用会社の 1 億 8,900 万ユーロ）という注目すべき 3 つの要因が含まれています。

クレディ・アグリコル・グループ連結決算

2015 年 9 月末現在の当グループの顧客ローン残高は、およそ 7,320 億ユーロでした。資金調達に関しては、オン・バランスシートの顧客預金は、およそ 6,540 億ユーロに達しました。

(in millions of euros)	Q3-15	Change Q3/Q3	9M-15*	Change 9M/9M
Revenues	**7,513**	**(0.3%)**	**23,805**	**+3.9%**
Operating expenses excluding SRF	(4,728)	+1.8%	(14,635)	+2.1 %
SRF impact	-	-	(229)	-
Gross operating income	**2,785**	**(3.7%)**	**8,941**	**+4.2%**
Cost of risk	(542)	(20.7%)	(2,188)	(6.1%)
Operating income	**2,243**	**+1.5%**	**6,753**	**+8.1%**
Share of net income of equity-accounted entities	298	x3.7	416	nm
Net income on other assets	-	(95.0%)	1	(81.8%)
Change in value of goodwill	-	nm	-	nm
Net income before tax	**2,541**	**+10.8%**	**7,170**	**+23.4%**
Tax	(700)	+7.1%	(2,376)	+20.8%
Net income from discontinued or held for sale operations	(5)	nm	(23)	nm
Net income	**1,836**	**+12.0%**	**4,771**	**+24.1%**
Non-controlling interests	85	(16.3%)	292	+8.3%
Net income Group share	**1,751**	**+13.8%**	**4,479**	**+25.3%**

* 課徴金の会計処理に関する IFRIC21 の影響について修正再表示。

2015 年度第 3 四半期のクレディ・アグリコル・グループの収益は、2014 年度第 3 四半期比 0.3%減の 75 億 1,300 万ユーロとなりました。事業活動とは無関係の項目（コーポレート・センターで計上された発行体スプレッド、法人営業及び投資銀行部門のローン・ヘッジ、及び法人営業及び投資銀行部門とコーポレート・センターの DVA running）は、前年同期の+5,700 万ユーロに対して-2,600 万ユーロとなりました。これらの項目の修正再表示後の 2015 年度第 3 四半期の収益は、前年同期比 0.8%増となると共に、事業部門の収益は、保険事業にけん引されて、同じ条件での修正再表示後で 1.7%増となりました。

2015 年度第 3 四半期の営業費用は、前年同期比で 1.8%増となりました。

2015 年度第 3 四半期のリスク関連費用は、前年同期比 20.7%減の 5 億 4,200 万ユーロでした。これは、残高の 25 ベーシス・ポイント（2014 年度第 3 四半期は 34 ベーシス・ポイント）に相当します。この減少は特に、フランスのリテール・バンキング部門（LCL）と消費者金融（特にアゴス・デュカト）で顕著でした。

2015 年度第 3 四半期の持分法適用会社の純利益帰属分は、専門金融サービス部門（主に自動車ロ

ーン提携事業）からの 4,400 万ユーロ、法人営業及び投資銀行部門からの 5,900 万ユーロ、及びユーラゼオ社からの 1 億 8,900 万ユーロのそれぞれの寄与分を含めて 2 億 9,800 万ユーロでした。

全体では、純利益グループ帰属分は、前年同期の 15 億 3,800 万ユーロに対して 13.8%増となる 17 億 5,100 ユーロでした。事業活動とは無関係の特殊要因の影響を除いた 2015 年度第 3 四半期の純利益グループ帰属分は、2014 年度第 3 四半期の 15 億ユーロから 17.8%増の 17 億 6,700 万ユーロとなりました。

*****

Crédit Agricole S.A.'s financial information for the third quarter and first nine months of 2015 consists of this press release and the attached presentation. All regulated information, including the registration document, is available on the website www.credit-agricole.com/Finance- and-Shareholders under "Financial reporting" and is published by Crédit Agricole S.A. pursuant to the provisions of article L. 451-1-2 of the Code Monétaire et Financier and articles 222-1 et seq. of the AMF General Regulation.

INVESTOR RELATIONS + 33 1.43.23.04.31

Denis Kleiber	+ 33 1.57.72.26.78	Fabienne Heureux	+ 33 1.43.23.06.38
Sébastien Chavane	+ 33 1.57.72.23.46	Aurélie Marboeuf	+ 33 1.57.72.38.05
Laurence Gascon	+ 33 1.57.72.38.63		